第413号

主な記事

1面	社会保障制度の改善を要請、保険で良い歯科医療の実現を求める請願、保険医休業保障共済制度再開へ道筋
2面	国保制度の改善を！、市町村へワクチン接種費用の助成を要請、発言テーマ
3面	減点事例について、禁煙ミニリーフのご案内、世論事空間
4面	睡眠時無呼吸症候群、子どもの医療費、6つの市町村で前進、理事会だより、協会行事案内、岩手協会のキセキ⑧

岩手県保険医新聞

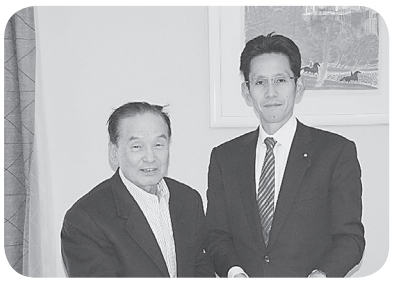
発行所
岩手県保険医協会
〒020-0034
盛岡市盛岡駅前通15－19
TEL 019-651-7341(代)
FAX 019-651-7374
発行人　箱石勝見
http://www.i-hoken-i.org
購読料　年2,400円（〒別）
会員の購読料は会費に含まれています。

社会保障制度の改善を要請

階猛衆議院議員との懇談

患者窓口負担の引き下げや歯科医療の保険給付拡充など社会保障制度の改善を求め、1月29日、盛岡市内のホテルで岩手1区選出の階猛衆議院議員との懇談を行いました。当協会は箱石会長はじめ役員、事務局8名が参加しました。

箱石会長、階議員のあいさつの後、小山田副会長が当協会で行った受診抑制アンケート結果や歯科診療報酬調査結果などの資料をもとに、県内で受診抑制が進んでいることや昨年の歯科診療報酬2・09％の引き上げが行われた



階議員（右）に要請書を渡す箱石会長（左）

が患者減により多くの歯科医院で減収になっている実態等について説明しました。併せて「社会保障制度の充実を求める要請」項目を読み上げ、階議員に要請しました。

階議員は「国政では医療分野に関わる機会がなかったので、たいへん参考になった。今後の取り組みに活かしていきたい」と述べました。また、他県で県単独医療費助成制度を現物給付にしたことで医療費がどの程度増えたのかなど、様々質問もされました。

その他、出席した役員からは、高齢者の肺炎球菌ワクチンの助成や、消費税の医院経営に与える影響、個別指導時の可視化について意見が出されました。

◎出席者
階　猛　衆議院議員
森田　泰啓　階議員秘書
箱石　勝見　会長
小山田榮二　副会長
黒田　康之　常任理事
佐藤　豊　常任理事
田村　公一　常任理事
東山　敬貴　常任理事
畠山　恒平　事務局長
伊藤　大　事務局員

懇談のようす

「社会保障制度の改善を求める要請」項目

1．お金の心配をせず安心して受診できるよう、医療費窓口負担３割を２割に引き下げてください。
2．自治体が単独医療費助成事業で現物給付を行った際に課せられる、国からの調整交付金削減のペナルティを止めてください。
3．歯科医療の診療報酬を引き上げて下さい。また、歯科医療の保険適用範囲を拡充してください。
4．医師の不足・偏在を是正してください。
5．後期高齢者医療制度を速やかに廃止してください。
6．国保の広域化をやめ、市町村が健全に国保運営できるよう、引き下げられている国保財政への国庫負担率を元に戻してください。
7．医療機関に対する事業税の非課税措置を2012年度以降も継続させて下さい。
8．医療機関に対する指導について、高圧的な指導ではなく、医療者や患者にとって良い医療となるような教育的指導を行ってください。

保団連の英知を結集し困難打開と国民的世論構築を

―保険医休業保障共済制度再開へ道筋―

1月30日、東京・都市センターホテルにて保団連第43回臨時大会が開催されました。各協会・医会より役員事務局合わせ328人が出席し、岩手からは箱石会長と南部常任理事、事務局が出席しました。

冒頭、住江会長は「改正保険業法への対応においては休業保障制度を守りぬくという粘り強いたたかいで展望を作り出したことについて大きな確信を持ちたい。また、今通常国会は不安定な政権のもとで問題が山積している。通常国会での大きな世論構築に向けて本日の旺盛な議論をお願いしたい。」と述べました。

大会の討論では114題の発言通告のもと、患者窓口負担大幅軽減や国民皆保険制度の堅持、審査・指導・監査問題への対応、崩壊しつつある歯科医療の立て直しなど多岐に渡る活発なフロア討論がなされました。

箱石大会代表の発言通告についての執行部答弁（三田理事）
「質のいい医療を提供するため、消費税免税を」

ご発言は保団連への力強い支援と感謝しております。診療報酬の消費税非課税による損税問題は消費税最大の欠陥です。これまで経営税務部ではパンフレットやリーフレットを作成し普及に努めてきました。署名推進や国会行動での議員への要請懇談なども随時行って参りました。現在、ホームページの開設も検討しております。損税問題は最重要課題のひとつであり、対策強化を進めて参ります。是非、各協会・医会の先生方におかれましてはリーフレットの普及、議員要請など更なるご奮起をお願いしたいと考えております。

箱石大会代表の発言通告についての執行部答弁（中島理事）
「介護現場の改善のため、保団連の運動に期待する」

2000年に発足した介護保険制度は03年と06年の2回の介護報酬の改定で4・7％の引き下げが行われました。また06年の介護保険法改定では要介護1の給付削減や光熱費や食費の保険給付外しが行われましたが、これによる財政影響は介護報酬に換算すると10％程度の引き下げに相当します。介護崩壊に対する国民の大きな怒りと運動の中で、09年には公称3％の引き上げが実施され介護職員処遇改善交付金制度が創設されましたが、ご指摘の通り全く不十分な内容となっております。今後、介護保険給付と介護報酬改善に全力を挙げて参りたいと思います。

箱石大会代表の発言通告は2面に掲載

箱石大会代表（右）と南部大会代表（左）

保険で良い歯科医療の実現を求める請願

採択は25市町村議会 71・4％に

2009年9月議会より取り組みを始めた「保険で良い歯科医療の実現を求める」請願は、25の市町村議会で採決され、採択率は71・4％となりました。残るは9議会となります。これまで採択した議会は下記の通りです。

請願は、長引く景気低迷で経済的理由により歯科受診を控える方が多い中、お金の心配なく受診できるよう窓口負担を引き下げること、保険治療の範囲を拡大すること、また歯科医師はじめ歯科衛生士や歯科技工士の就業環境改善のために歯科診療報酬を引き上げることを求めるものです。

請願は全国でも取り組まれており、本年1月21日時点で11県議会、517市町村議会（29・9％）で採択されております。

当協会では、県内全ての議会で採択されるよう引き続き取り組みを進めて参りますので、先生方には今後ともご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

請願項目
1、患者窓口負担を軽減すること。
2、保険給付の範囲を拡大すること。
3、より良質な歯科医療が提供できるよう診療報酬を改善すること。

請願を採択した議会

2009年9月議会
県議会、盛岡市議会、花巻市議会、北上市議会、二戸市議会、宮古市議会、遠野市議会、紫波町議会、一戸町議会　（9議会）

2009年12月議会
一関市議会、滝沢村議会　（2議会）

2010年3月議会
陸前高田市議会、平泉町議会、矢巾町議会（3議会）

2010年9月議会
久慈市議会、西和賀町議会、洋野町議会、岩手町議会、奥州市議会（5議会）

2010年12月議会
大槌町議会、岩泉町議会、山田町議会、普代村議会、田野畑村議会、雫石町議会（6議会）

以上、25議会（採択率71.4％）

鍼のひびき

最近、実に歯科医療は面白いと思うようになった。何故ならば、歯科医療をきちんと実施できれば、患者さんはどんどん元気になり、喜んでくれるからだ。たまに講演等を頼まれたとき、近頃の演題名は「健口は健康への入り口」にしている。誰が最初に言ったのか存知ないが、実に名言だと思う。歯科医療はミクロからではなく、マクロから入る。患者さんの姿勢、顔色、表情、顔の対象性、眼球の状態、耳、口唇の状態、背骨、腰、手、足等々、患者さんの体は実に色々な情報を発信している。それから、やっと口の中だ。これまた、面白い。口の中を見せてもらっただけで、おおよそのその方の性格、今までの人生経路、経済状態等々、想像が付く。もちろん、外れていることもあろうが…。だから、口の中を清潔にし、歯周病や齲蝕の問題も解決し、体に調和した咬合を与えてあげると人間、元気になるのだ。本当に咬合は大事だ。一本の歯の当たりが人生を変えると言っても過言ではない。ちょっと咬合調整をしてあげたら、長年の頭痛が改善した人もいた。知覚過敏なども多くは咬合が関係している。本当に咬合は歯科医療の根幹だ。口唇力を鍛え、表情筋を鍛えると多くの全身状態を改善できるのも周知の事実である。こんなに、面白く、人間を元気に出来る歯科医療なのに、近年、歯学部志願者が少ないとか、母校の国家試験合格率が低いとか暗い話を耳にする。人間を元気にするために是非、優秀な歯科医師がどんどん育って欲しいと切に願うばかりである。

（深澤）

■　税務調査、個別指導、保健所の立入検査の連絡があった際は、お早めに協会にご相談ください。（TEL019-651-7341）

国保制度の改善を！

国保を良くする会が発足

高すぎる国保税の引き下げや、低所得者の保険料や窓口負担の減免を実現するため、「盛岡市国保を良くする会」が1月22日、発足しました。会の構成は当協会のほか、自営業者の団体や退職者の方々、盛岡医療生協や生活と健康を守る会など、団体や個人になります。

代表には、盛岡民主商工会会長の高杉孫六氏が選出されました。高杉代表は「低所得者でも国保税が支払えるように国保税の値上げを阻止していきたい。また引き下げられている国保への公費負担を元に戻す取り組みも進めたい」とあいさつしました。続いて、村上和雄事務局長が国保を巡る情勢報告や当面の活動方針、会の申し合わせ等の確認を行いました。

フロアからは「盛岡市民に行ったアンケートでは、国保税が高いと感じている人は75％に上った一方、不満は無いと言う回答は7％だけであった。また国保世帯の5分の1が国保税を滞納しており、国保税の引き下げが求められている」「来年度から玉山区の国保税は盛岡市と統一される。区民の所得が減っている中1800万円の引き上げとなり、何とか引き上げを阻止したい」などの発言がありました。

会では、制度の改善のために当面次の取り組みを行っていくことが確認されました。

当面の活動方針

1、盛岡市議会への請願
　① 国保税を引き下げること
　② 資格証明書、短期保険証の発行は直ちにやめること
　③ 生活困窮者に対する国保税、窓口負担の減免制度を拡充すること
　④ 国庫負担の引き上げを国に要望すること

2、盛岡市長への要請

3、国保問題についての学習会などの企画

あいさつする高杉代表（右）

市町村へワクチン接種費用の助成を要請

1月5日、当協会は子宮頸がんワクチン、小児肺炎球菌ワクチン、ヒブワクチンの助成を実施していない市町村長宛てに左記の要請書を送付しました。

これは、昨年11月、厚生労働省が3つのワクチン接種の助成を行っている自治体に対し、費用の半額を負担する通知を出したことによります。

これらのワクチンは定期接種化されておらず高額なため、接種したくてもできない状況があります。要請書では、同ワクチンの助成事業の実施を求めています。

盛岡市長
　谷藤　裕明　様

2011年1月5日
岩手県保険医協会
会長　箱石　勝見

ワクチン接種費用の助成を求める要請

前略

住民の生活向上のため、日々ご奮闘されておられますことに敬意を表します。

当協会は、県内の医師及び歯科医師で構成する団体です。

ご承知のことと存じますが、厚生労働省は昨年11月26日に国の補正予算成立を受け、市町村が小児肺炎球菌及びヒブ、子宮頸がんの各ワクチン接種の助成を行った場合、費用の半額を負担するとの通知を出しました。

わが国は、他国に比べワクチン接種の公費助成が限られており、高額な接種費用がまかなえず接種を踏みとどまる方がたくさんいます。ワクチン接種することで助かる命が助からなかったということがあってはなりません。

本来であれば国が全額助成するべきですが、まずは一歩前進です。

つきまして、貴自治体におかれましては、上記3つのワクチン接種の助成事業を実施して頂きますよう要請致します。財政が厳しい中、予算を伴う新たな事業を行うのは困難なことであると存じますが、地域住民、とりわけ子どもや母体の命を守る事業ですので、ぜひ実施頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

草々

ワクチン接種助成市町村一覧

（2010年12月20日現在）
＜県庁医療推進課担当者及び、各市町村担当者からの聞き取り＞

肺炎球菌ワクチン

市町村	対象	補助額	実施日
藤沢町	国保加入の方	3,000円	2002年より
宮古市	70歳以上、また生活保護受給者には8,000円を限度に助成	3,000円	2010年6月より
金ケ崎町	65歳以上、また医師が必要と認めた64歳以下の方	3,000円	2010年6月より
住田町	65歳以上、また2歳～64歳までの慢性心疾患があり主治医が必要と認めた方	5,000円	2010年7月より
紫波町	75歳以上	2,000円	2010年10月より
野田村	65歳以上	5,000円	2010年10月より

ヒブワクチン

市町村	対象	補助額	実施日
釜石市	2,000g未満で生まれた2カ月から7カ月未満の方	1回3,000円の4回まで	2010年4月より
野田村	2カ月から5歳未満の方	全額補助	2010年10月より

小児用肺炎球菌

市町村	対象	補助額	実施日
久慈市	5歳未満	全額	2010年11月より
野田村	9歳まで	全額	2010年11月より

子宮頸がん

市町村	対象	補助額	実施日
久慈市	中学2、3年生（今年度）	全額	2010年11月より
洋野町	中1～中3（今年度）来年度からは中1のみ	全額	2010年度7月より
野田村	小6～中3（今年度）来年度は小6のみ	全額	今年度より
普代村	中3、中2（今年度）来年度は中2、中1	全額	今年度より
軽米町	中3	全額	今年度より

●1面関連記事●

発言テーマ

質のいい医療を提供するため、消費税免税を

菅直人首相は年頭記者会見において、「財源問題を含めた超党派の議論を開始したい」と述べ、社会保障費の確保を目的に、消費税増税を含めた超党派の議論を呼びかけました。

消費税については、マスコミの世論誘導の影響もあり、社会保障のためには増税やむなし、増税して当たり前という風潮になっております。

消費税増税となれば、医療機関への影響も確実となります。来年度の税制改正では企業減税を先行し、15歳以下の年少扶養控除を廃止・給与所得控除を縮小するなど、個人の負担が重くなります。その上消費税増税となれば、受診抑制が進むことは目に見えています。

現在、消費税は医療側が最終負担者となっており、昨今の医院経営を悪化させている要因の一つです。医療は「非課税」と言われていますが、患者の窓口負担の話であり、医院の経費として医療側が負担していることは国民に理解されるに至っておりません。

企業のグローバル化が進む中、大企業には消費税導入当初より輸出免税が認められています。免税となるためには手続きや証明書などを保管する必要がありますが、大企業になるほど莫大な額の還付を受けています。にもかかわらず、大企業は雇用を増やすどころか、内部留保を増やし、景気は悪化する一方です。

そこで、医療従事者が国民に実態を広く伝えて理解を得、医療における消費税免税を早急にすすめる必要があると思います。このままでは医療の質の低下だけでなく、消費税倒産もさらに増えることでしょう。医療の公共性を守り、医療の質を確保するためにも、消費税免税制度は莫大な利益を上げている一握りの企業だけでなく、医療にこそ適用させるべきものと考えます。課税仕入れに含まれる消費税の還付を受けることができれば、経営も多少改善されると思います。

保団連におかれましても、早急に要求の実現に向けて運動を展開していくことを求めます。

発言テーマ

介護現場の改善のため、保団連の運動に期待する

介護を取り巻く環境については、介護労働者の低賃金で過重労働による離職率の高さなど、全く改善されていないといえます。私も一時期介護施設に診察に出向いていたこともあって現場を見ておりますが、特に民間が運営する施設の環境はひどいものがあります。そして、その劣悪な環境のツケは施設利用者へ跳ね返ることとなり、利用者のための利用者本位の介護サービスではなく、介護事業者と介護従事者が介護しやすい介護施設本位の介護サービスとなっているという実態があると思います。

厚労省も介護労働者の雇用管理改善については、大まかに言えば事業者で努力しなさいと事業者任せにしているため、多少の介護報酬の増加や交付金によって、介護従事者が充足し、介護現場の環境が改善されて施設利用者に還元されるとは考えにくいものがあります。

具体例をあげると、公共事業削減や競争の激化などにより、地元の建設業者やタクシー会社などが、十分な知識もないまま、新規事業として施設待機者等をターゲットにした有料老人ホーム等の運営を始めているという現状があります。もちろん、奉仕の精神で良心的に運営している施設もあるとは思いますが、上記のような施設の現場では、介護従事者や対応する医師の確保など不十分なまま運営している実態があると耳にしています。ずさんな施設経営による被害は、最終的に施設利用者に降りかかります。

現在の介護保険制度に根本的な問題があるのは明らかですが、現実問題として、国や行政が、特に営利企業が母体の施設の労働実態・経理などについて積極的に関与していく必要があるように思います。また、来年は診療報酬と介護報酬の同時改定の年です。介護報酬引き上げの運動もこれと並行して行わないと環境改善に繋がりません。

保団連の介護を取り巻く環境改善の運動に期待します。

■　保団連メールマガジン購読者募集中！　詳しくは保険医協会までお問い合わせ下さい。（TEL 019-651-7341）

減点事例について
（医科の事例について）

当協会社会保険部では、昨年11月から12月にかけて、全ての開業医会員に対して、審査機関から減点を受けた事例についてアンケートのご協力をお願いしたところ、数名の医科の先生より返信頂きましたので掲載致します。

ご協力ありがとうございました。

なお、医療機関名等の個人情報は掲載致しませんでしたのでご了承願います。

納得のいかない減点については再請求をされており、復活した事例もございます。今後の診療及び請求事務の参考にして頂ければ幸いです。

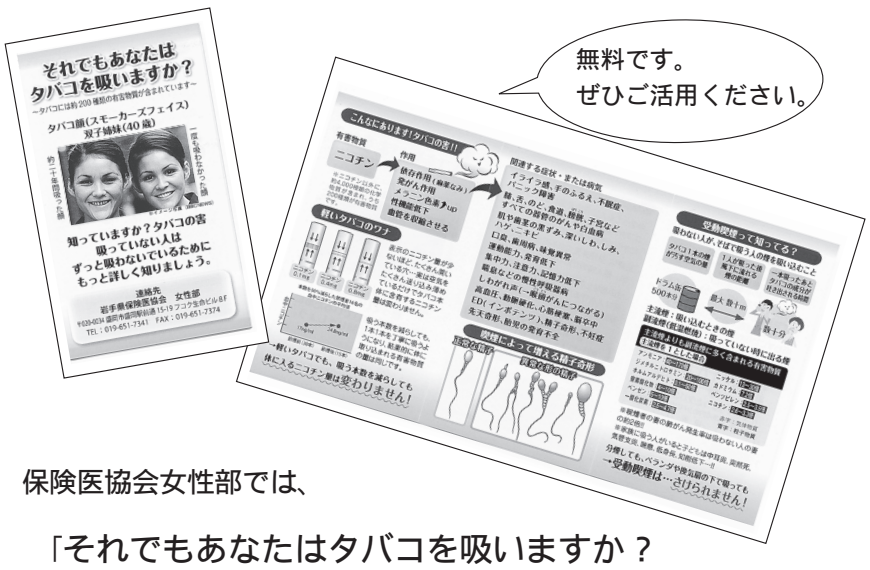
パンフレットのご案内

保団連で発行した「どうする？日本の医療費」と『保険でより良い歯科医療』で『健康増進社会』へ」のパンフレットは、診療報酬や医療費、経済格差が歯の健康格差につながっていることなどをわかりやすくカラーで紹介している患者さん向けパンフレットです。

待合室などでぜひご活用ください。

ご入用の際は、協会事務局までご連絡くださいますようお願いします。無料でお送りさせていただきます。

禁煙ミニリーフのご案内



保険医協会女性部では、

「それでもあなたはタバコを吸いますか？

～タバコには約200種類の有害物質が含まれています～」

のタイトルでタバコの害についてわかりやすく解説している名刺サイズの「禁煙ミニリーフ」を発行し、在庫が900部ほどあります。

主に、中学生・高校生・大学生向けの内容になっています。医療機関の窓口で患者さんに、学校で生徒さんにぜひ普及したい内容です。無料となっておりますので、ぜひご活用ください。（在庫限り）

ご入用の際は保険医協会事務局までご連絡くださいますようお願いします。

減点された事例について　（抜粋）

A医院	項　目	画像診断
	内　容	右第５中足骨骨折の患者に対し、１日・８日・15日・24日・30日と週に１度のレントゲン撮影を行ったところ過剰ということで、１回分減点された。
	審査機関	国保連
	対応と結果	納得できなかったので再審査請求をした→原審どおり（認められなかった）
B医院	項　目	初・再診料
	内　容	午前中、泌尿器科の診察をし、外来管理科加算を算定。午後、皮膚科の診察をし、軟膏処置を算定したため、外来管理科加算を算定せず。同日再診であった。午前に算定した外来管理加算が減点された。
	審査機関	国保連
	対応と結果	納得できなかったので再審査請求をした→復活した（認められた）
	項　目	医学管理料等
	内　容	特定疾患療養管理料を算定した患者の管理料が減点されてきた。入院していたとの事で患者の申し出がないと、入院していた事が分からなくて、算定してしまう事がある。
	審査機関	国保連
	対応と結果	納得した
C医院	項　目	投薬
	内　容	ステーブラ錠の病名を神経性頻尿で請求していたら、減点された。次月より過活動膀胱に病名を変更し請求した。
	審査機関	国保連
	対応と結果	納得した
D医院	項　目	検査（HBs抗体価）
	内　容	インターフェロン療法中、HBe抗体（＋）の為、陰性化する働きがないか確認のため算定。
	審査機関	支払基金
	対応と結果	納得できなかったので再審査請求をした→復活した（認められた）

よろずくうかん 世論事空間

■飲酒→仮眠→運転は危険、吸収・分解遅れる

飲酒後に睡眠を取ると、アルコールの吸収や分解が大幅に遅れることが、国立病院機構久里浜アルコール症センターと札幌医科大の共同研究でわかった。

同大の松本博志教授は、睡眠により、アルコールを吸収する腸の働きと分解する肝臓の活動が弱まった可能性が高いと分析している。

また、同センターの樋口進医師が海外の研究を調べたところ、アルコール分解後、少なくとも３時間は運転技能が低下することもわかった。樋口医師は「飲酒後に『仮眠を取ったから大丈夫』と考えるのは危険。酔いがさめても、すぐには正確な運転ができない」と指摘。寝不足による居眠り運転にも注意が必要なため、「飲酒後、十分な時間を取れないなら運転しないでほしい」と話している。

★「少ししか飲んでいないから、軽く仮眠を取って・・・」などと言い訳する人は昔から（今も？）多い。「深酒したら翌日も運転しない。」の心がけが大切か。

■低所得世帯の医療費軽減見送り…財源確保できず

政府は12月１日、医療費の窓口負担が一定額を超えた場合に払い戻す高額療養費制度について、これまで検討していた一部低所得世帯の負担上限額の引き下げを、2011年度は見送る方針を固めた。

高額療養費制度の見直しをめぐっては、患者団体などから医療費の負担が重すぎるとの声が強く、厚労省は70歳未満の年間所得約300万円以下の世帯（住民税非課税世帯は除く）を対象に、現行の月額約８万円を半分程度に引き下げる方向で協議していた。

ただ、引き下げには新たな財源約2600億円が必要で、高所得世帯の上限を引き上げて負担を増やし、それを充てる案を軸に調整を進めた。

しかし、年収約800－1,000万円世帯の負担上限を月３万円上げて18万円程度とし、年収1,000万円以上は月10万円上げて25万円程度とした場合でも、捻出できるのは400億円程度で、制度改革による財源確保は難しいとの結論に至り、高所得世帯の負担増も見送られることになった。

★財源確保の目処が立たない、とはいつもの言い訳。「パイの論理」から抜け出して、本当に必要なものは何かを論議しないといけません。

■女性の涙に「逆フェロモン」…男性の興奮鎮静化

女性の涙には男性の感情に影響する化学物質が含まれているとの実験結果をイスラエルにあるワイツマン科学研究所のチームがまとめ、米科学誌サイエンス電子版で発表した。

昆虫では、情報伝達の役割を担う微量の化学物質「フェロモン」が生殖行動に影響し、マウスでも雄の涙腺から分泌される物質が雌に交尾を促すことが報告されている。今回、動物の世界で知られる促進フェロモンとは異なる作用のフェロモンが人間に備わっている可能性が強まった。

研究チームはまず、複数の女性ボランティアに悲しい映画を見せ、涙を採取。涙と塩水がしみこんだシートを男性被験者24人の鼻の下に別々にはりつけると、涙のシートをつけた場合でのみ、女性の顔写真に性的魅力を感じる度合いが減った。

唾液中の男性ホルモン「テストステロン」の濃度も低下したほか、脳の活動を調べる機能的磁気共鳴画像装置（ｆMRＩ）でも、性的興奮にかかわる視床下部などで活動が低下していることを確認した。

★「男は女の涙に弱い」と昔から言われていますが、科学的に証明されたのですね。

記事：読売新聞

★広報部コメント

最新の治療方法を学んだ
―睡眠時無呼吸症候群―

10月31日、盛岡のアイーナで「知っておきたい　睡眠時無呼吸症候群―医科・歯科の立場から―」を行い、44名の参加者が集まりました。

はじめに、かなざわ内科クリニックの金澤格先生より、多発する睡眠障害の事故から、睡眠呼吸障害の診断基準やメタボとの関係、CPAPについてなど睡眠時無呼吸症候群について全般的にお話しいただき、岩手医大の睡眠医療科の紹介もされました。

金澤格先生

次に、赤坂病院泌尿器科の船木廣英先生から、夜間頻尿によるQOL障害とその評価について、閉塞性睡眠時無呼吸症候群と泌尿器科症状として夜間頻尿およびEDについてお話いただきました。

船木廣英先生

最後に、歯科の立場から、なかの矯正歯科の中野廣一先生より、口腔内装置やOA装着前後で改善した人と悪くなった人の例を挙げてそれぞれ説明していただきました。

参加者からもいくつか質問が出され、充実した勉強会となりました。今後、情報があれば、随時掲載する予定です。

中野廣一先生

参加者のようす

子どもの医療費
6つの市町村で前進

市町村単独医療費助成事業について、今年1月から、奥州市（所得制限有）と久慈市（所得制限無）で小学生まで対象が拡大となりました。両自治体ともかかった医療費の半額を助成します。奥州市は昨年10月までさかのぼって申請可能ということです。久慈市では、今回の策は子育て支援の充実を目的としています。

今年度、進展がみられたのは、宮古市、八幡平市、雫石町、岩手町で上記の通りです。

岩手県の人口減少・全国的な少子化が進む中、各自治体で子育て支援としてのこうした取り組みが広がっています。

今年度、対象者が拡大した市町村単独医療費助成事業

市町村	対　象	所得制限	助成額	実　施　月
宮　古　市	小学生まで	無	全　額	2010年4月より
奥　州　市	小学生まで	無	半　額	2011年1月より（2010年10月分から可）
久　慈　市	小学生まで	有	半　額	2011年1月より
八幡平市	小学生まで	無	全　額	2010年4月より
雫　石　町	中学生まで	無	全　額	2010年4月より
岩　手　町	中学生まで	無	全　額	2010年4月より

理事会だより12月

【日　時】2010年12月14日(火) 19：30～19：50
【場　所】ホテルメトロポリタン盛岡
【出席者】役員、事務局併せて17名

1、2010年度第7回常任理事会議事要録が承認された
2、2010年度11月期活動報告並びに2010年12～2011年1月期活動計画について承認された
3、保団連臨時大会発言通告について承認された
4、岩手グループ保険シェアについて確認された
5、明治安田生命個人保険の集団扱いについて期限までに回復の見込みがないと判断された場合は継続を断念することが承認された
6、記録映画「希望のシグナル」製作協力募金1口を支出し、会員に案内を送ることが承認された

協会行事案内

■ひなまつりランチ交流会（女性医師・歯科医師・女子学生）　第3回 山笑ふの会
【日　時】　3月6日(日)11：30～13：30
【場　所】　岩手県立美術館レストラン　パティオ（盛岡市本宮字松幅12－3）
【参加費】　おとな1500円、学生無料
【対象者】　女性医師・歯科医師・女子医学生・歯学生
※　2月25日までにお申し込みください。

■歯科カルテ記載学習会　「指導にも診療にも役立つカルテ記載とQ＆A」
・初診は何カ月あいたら起こせるのか？
・検診希望で来院した患者さんに保険は適応か？
・文書提供した患者さんから、いらないからお金返してと言われた。
・1日で全顎SCは良いのか？　　etc
日常治療の中で効率の良いカルテ記載の方法をお話しします！
【日　時】　3月27日(日)10：00～12：30
【場　所】　ホテルロイヤル盛岡3Fロイヤルホール（盛岡市菜園1－11－11）
講　師：松島良次氏（東京歯科保険医協会副会長　社保学術部長）
【参加費】　無　料（定員になり次第締め切らせていただきます。）

■協会ホームページもご活用ください。
岩手県保険医協会では、ホームページでも情報発信しています。
アンケートの調査結果や会員ページには講演資料や医療安全管理指針のひな形、社保情報、書籍案内などを掲載しています。パスワードにつきましては、お電話にてお問い合わせください。

http://www.i-hoken-i.org/index.html
または、インターネットで 岩手県保険医協会 で検索してご利用ください。

岩手協会のキセキ ⑧

事務局参与　山内敏子

爽やかなスキー教室

箱石会長へやっと帰県のあいさつに行ってきた。事務、看護師さんはほとんどが開業以来の方で現職時代は本当にお世話になった方々で懐かしい。

「時々山内さんはどうしているかと話しているの」とリップサービスにしても嬉しい再会で元気をもらった。

院長室でお茶をご馳走になっていた際「山ノ内、（現職時代から〝やまのうち〟と呼ばれている）、カマキリは仲間を喰うか？」と突然の質問に首をひねっていると「カマキリの雌は交尾のあと雄を食べるんだぞ、俺も食べられそうになった」と豪快に笑う。

院長室に色鮮やかなグリーンのスキーウエアとスキー靴、そして同色のヘルメットまであった。

（そうか…グリーンのウエアに身を包んだ先生はカマキリ…。ということは…）

「白銀のゲレンデで素敵な出会いがあったのですね。お若い!!」と大笑い。

（先生も変わらずにお元気でよかった…）

「山ノ内、スキーは年をとっても出来るスポーツだぞ。昔みたいにみんなで滑ろう」と話は弾むものの、若い頃転倒してスキーの金具にお尻で着地し尾てい骨骨折をした。その時の痛みがよみがえる。でも頬で風を受け、スキー板の下に圧雪の具合を感じて滑っている時、自然に抱かれているようでリフレッシュできた感覚は忘れられない。颯爽と滑る自身の姿を想像し、機会があったら再チャレンジしてみようと思った。

笑顔で滑る参加者

協会では文化・スポーツ活動も重視しスキー教室を開催してきた。

箱石会長、池田健副会長、菊月圭吾先生など内部とスキー場の講師も加えての充実した講師陣で初心者から上級者まで楽しめる本格的スキー教室であった。

参加者から「帰りはビールでのどを潤したい」というニーズに応えバスをチャーターし、運転の心配もなく出かけた時もあった。ナイトスキーも楽しみたいということでペンションに一泊してスキー大満喫の企画も何度か行った。

須原富次顧問は68才からスキーをはじめ、その後はスキーに熱中し安比スキー場の頂上から滑る腕前（足前）になり脱帽である。初めての教室で須原顧問はカニ歩きをしてボーゲンで滑り降りる練習をしていたが、午後にはリフトに乗って上から滑って本当に楽しそうであった。須原顧問は「箱石君にだまされた」とジョーク交じりで話すが、その上達の速いことに驚くばかり。会議では侃々諤々の議論をする先生方がゲレンデでは教え、教えられ、実に爽やかであった。

尾てい骨骨折をしてからは、荷物係り・撮影係りなどで参加し、スキーを履かない人はリフトに乗せてもらえない規則らしいが、何とか乗せてもらいブーツでゲレンデを走り回った。講師が丁寧に説明し実演し教えている様子を写し、参加者が練習している間にかけ降りて、滑降してくる参加者を待ち受けてもう一枚撮影…。

こんな形でもゲレンデの開放感は充分満喫し楽しかった。

懇切丁寧で優しい池田副会長、滑り降りる上体が全くぶれなく、かっこいい菊月先生、必ず褒めながら教える箱石会長。

講師陣にはいつもご苦労をおかけしたが、レストハウス前で晴々とした笑顔で滑り降りてくる参加者に会うと自分も滑った気分になってしまうのが不思議というもの。

あの時に参加した、小山田先生・柿沼先生・間山先生・室岡先生・深澤先生やその医院のスタッフ・ご家族はスキーを続けて居られるだろうか。

箱石会長は我流にならないように年に数回はスキー教室に入り、フォームやテクニックのチェックをしていただいているという。

（この努力に敬服…）

変わらない講師陣でスキー教室同窓会を兼ねたスキー教室の再開ができたら楽しいだろうと思う。

ペンションの交流会でスキーの解説をする箱石会長